

# 第1講

# 人類の誕生とオリエント世界

## 基礎学習

● [ ] の中に適切な語句や数字を入れて、要点を整理しよう。(解答は解答解説 P.1)

### この講の流れ図

(1) 原始の世界	(2) 古代オリエント世界
<p>〈約700万年前〜〉旧石器時代前期(鮮新世=温暖期)                      猿人の出現…直立二足歩行し礫石器を使用                      サヘラントロプス ラミダス猿人 アウストラロピテクス</p> <p>〈約240万年前〜〉旧石器時代中期(更新世前期=氷河期)                      原人の出現…石核石器の使用・火の使用                      ホモ=ハビリス ジャワ原人 北京原人</p> <p>〈約60万年前〜〉旧石器時代後期(更新世中期=氷河期)                      旧人の出現…剝片石器の使用・埋葬の風習                      ネアンデルタール人</p> <p>〈約20万年前〜〉旧石器時代末期(更新世後期=氷河期)                      新人(現生人類)の出現…石刃の使用                      クロマニヨン人 グリマルディ人 周口店上洞人                      浜北人など</p> <p>〈約2万年前〜〉中石器時代 地球環境の温暖化始まる                      細石器の発明 骨角器の使用 洞穴壁画</p> <p>〈約11700年前〜〉新石器時代の開始(完新世=温暖期)                      初期農村・牧畜社会の形成                      磨製石器の使用</p>	<p>前3000年頃 メネス王の上下エジプト統一                      シュメール人の都市文明の形成</p> <p>前2300年頃 アッカド王国のメソポタミア初統一</p> <p>前2100年頃 ウル第3王朝の成立</p> <p>前1894年 アムル人のバビロン第1王朝成立</p> <p>前1700年頃 ヒッタイト王国の隆盛 鉄器の使用                      ⇒ミタンニ王国⇒前1350年頃アッシリアの独立                      ⇒カッシート王国→エラム人との抗争</p> <p>前1275年頃 カデシュの戦い</p> <p>前1200年頃 海の民の侵入                      セム語系3民族の活動                      アラム人…内陸中継貿易                      フェニキア人…地中海貿易</p> <p>前9世紀に植民市カルタゴ形成</p> <p>ヘブライ人…遊牧生活                      ⇒パレスチナへの南下とモーセの出エジプト                      ⇒前1000年頃 ヘブライ王国 ダヴィデ王, ソロモン王</p> <p>前671年 アッシリア王国のオリエント初統一</p> <p>前612年 〈アッシリアの4分裂〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エジプト第26王朝サイス朝</li> <li>アナトリアのリディア王朝…金属貨幣発明</li> <li>メソポタミアの新バビロニア</li> <li>前586年 バビロン捕囚</li> <li>イラン高原のメディア</li> </ul> <p>前525年 アケメネス朝のオリエント再統一</p>

### (1) 原始、人類の誕生と進化の過程を考える

#### ① 人類の起源

- 人類の起源には諸説あり、現段階では約700万年前に遡るとされている。
- 1990年代よりアメリカで進んだヒトゲノム計画(= 遺伝子配列情報解析計画, ヒトの遺伝子情報は2003年解析を完了)から、人類は地球環境の変化に影響されながら複雑な進化を遂げた事実が明らかになった。

#### ② 地球環境と人類の進化の関係

- 人類の進化の過程を考えると、地球環境の変化を抜きには語れない。地球の環境については、現代では温暖化による気候変動が叫ばれて久しいが、地球環境の歴史は元々寒冷化と温暖化を繰り返しており、人類はその

時々の環境へ適応して生物学的進化を遂げる一方、石や動植物を材料として製作した〔1〕の使用を進展させて環境を活用、改変する技術を進化させてきた。

### ③化石人骨から見る人類

#### I 猿人…約700万年前より登場

- 鮮新世(温暖期)を起源とする化石人類、直立二足歩行をする霊長類ヒト科の祖とされる。
- 礫石器=打ちかいただけの単純な〔2〕石器の使用例がみられる(=前期旧石器時代のスタート)。
- 化石人類の分布は、南アフリカのオーストラロピテクス(南のサル)、エチオピアのラミダス猿人などアフリカ南部から東部一帯に分布しているとされてきたが、〔3〕(アフリカ中部)で2001年フランスのブルネによりトゥーマイ猿人(サヘラントロプス)が見つかり、人類の起源と分布が見直された。

#### II 原人…約240万年前より登場

- 〔4〕(氷河期)前期にアフリカで出現した。その最初期の化石人類はタンザニアのオルドヴァイ渓谷で発見されたホモ=ハビリス(器用な人、猿人とする説も)と考えられている。
- 打製石器の一つである石核石器を使用し、ハンドアックス(握斧)や尖頭器などの加工に技巧が必要な石器が登場した。
- 彼らは、〔5〕を使用して暖をとり、獲物を焼くなどの行為から、肉食が進み、肉体の発達や脳の容積の増加などの進化を遂げて、氷河期の寒冷な環境への適応度合いを強めた。
- 化石人骨の分布は、アフリカを出てアジア東部に分布し、中国の北京郊外の〔6〕で発見された北京原人や〔7〕のジャワ島のトリニールのジャワ原人などがあり、学術的にはホモ=エレクトゥスに分類される。

#### III 旧人…約60万年前より登場

- 更新世中期から後期に出現し、ヨーロッパからアジア西部・中央を中心に分布する化石人類。
- 肉を切り毛皮などを剥ぐ目的で剥片石器を作成、この時期を中期旧石器時代と呼ぶ。
- ドイツの〔8〕人が代表的で、埋葬を行った遺跡が存在する。死者を<sup>とむら</sup>用う習慣は死生観の芽生えであり宗教や芸術などの文化を形成する土台となる習慣である。

#### IV 新人…約20万年前より登場

- 更新世後期にアフリカで出現して5万年前までに世界各地に分布し、現生人類へ直接つながる化石人類である。学術名を〔9〕と呼ぶ。
- 石刃(ブレード)技法を発明したことで、動物の骨や角を素材として漁労などに使用した〔10〕などの道具を進展させた。
- 特に2万年前頃より温暖化が徐々に進展し、マンモスなどの大型動物が絶滅すると、動きの速い鹿、牛、馬、<sup>うさぎ</sup>兔など中型、小型動物を狩るために細石器(マイクロリス)を発明した。後期旧石器時代に対して、この時期を中石器時代と呼ぶ。
- この時期の人類は、文化的活動の痕跡を多く残している。狩猟の姿を色彩豊かに描いた洞穴壁画がスペイン北部の〔11〕、フランス南西部の〔12〕でそれぞれ発見された。
- 代表的な化石人類は、フランスの〔13〕人、イタリアのグリマルディ人、中国の北京原人の洞穴の上の洞穴から発見された〔14〕人や日本の浜北人などが有名である。

### ④地球環境の温暖化と新石器時代の成立

- 約2万年前頃より、徐々に地球環境は温暖化し始めて約1万7000年前頃には、現在を表す地質年代である〔15〕(=後氷期)へと移行した。
- 温暖化により、狩猟だけでなく採集が本格化し、ドングリや果実などが豊富に手に入ると貯蔵・煮炊きの必要から〔16〕が作成され、<sup>なてあな</sup>竈穴住居などがつくられ定住が進んだ。
- 磨製石器が発明され木を伐採する磨製石斧や木の実をすり潰す石臼、草を刈る石鎌が使用された。
- 原始的な略奪農業が始まり獲得経済中心から、徐々に農耕・牧畜など〔17〕の比重が高まっ

た(食料生産革命 = 新石器革命)。

- 地母神や妊娠した女性などを崇め、多産・豊穡<sup>ほうじゆう</sup>を願う女性裸像(オーストリアのヴィレンドルフの女神、日本の土偶など)が作成されてアニミズム Animism (精霊 = Anima)的信仰や織物の作成などの文化の多様化が進んだ。この時期を新石器時代と呼ぶ。

## (2) 原始から古代へ、オリエント文明の形成

### ①初期農村の形成

#### ○前8000年(約1万年前)頃

新石器時代が進み農耕と牧畜が定着すると初期農村が形成された。代表的な遺跡は、パレスチナのヨルダン川西岸地区にあるイェリコ遺跡と、イラク北東部のザグロス山麓にあるジャルモ遺跡が存在する。洞穴生活を営んでいた人類が、新石器時代を迎えるなかで、略奪的な乾地農法から灌漑農業<sup>かんがい</sup>へと水利を整えて農業を営む村落社会へ変化したことが読み取れる遺跡である。

### ②文明の形成段階へ

- この後、文明段階への発展には、なお約5000年の時間を要する。
- この間の人類は、徐々に生産経済の比重が増していき貧富の差が村落ごとや人々の間で生まれ、支配層と被支配層を分ける階級社会が形成されていったと考えられている。
- 国家、文字、金属器を持つものが文明の三要素と呼ばれ文明段階の条件とされてきたが、この区分は文化との区分が曖昧であり、現在は見直されている。

### ③メソポタミア文明の形成と発展

#### I 前3000年頃

- ティグリス川とユーフラテス川の流域の、大農耕地帯である [①] と呼ばれる地域に、人類最古のメソポタミア(川の間地域)文明が形成期を迎えた。
- 古代史の多くに共通する政治形態として祭政一致の神権政治が展開され、王権の根拠として王が神の代弁者や化身となるオリエント的専制君主(神権により王権の裏付けをした君主)として周辺地域へも拡大していく(クレタ文明の専制王権、ローマ帝国のドミナトゥス制、ビザンツの皇帝教皇主義など)。

#### II 前2700年頃

シュメール人の都市文明の形成…メソポタミア南部を中心として都市文明を形成した。

- 民族系統は不明である。文明の最初となる民族には系統が不明なものが多い(クレタ人など)。
- 中心都市はウル、[②]、ラガシュなど。
- [③] に刻んだ楔形文字が使用された。六十進法、太陰暦、日時計の使用など高度な天文学的知識を持ち、以降メソポタミア文明全体と現在に至る文明にその知識は引き継がれた。
- 祭政一致の神権政治が展開され [④] (= 聖塔) などでは、戦争の捕虜<sup>いけにえ</sup>を生贄に捧げる儀式を行うなど、王は最高神官や戦士を兼ねた。
- 『ギルガメシュ叙事詩』などのウルク王ギルガメシュの活躍する英雄叙事詩が作られた。この後の多くの文明に共通する事項で、自らの民族の起源と偉大性を語る物語であり、『旧約聖書』のモーセ5書の1つである『創世記』における [⑤] 伝説の原型となった。

#### III 前2400年頃

アッカド王国…セム語族に属するアッカド人の王朝。メソポタミア中部より成立。

(※セム語族は現在のアラビア語やヘブライ語など)

- シュメール人の都市文明を征服して、サルゴン1世が [⑥] を初統一した領域国家。

#### IV 前2100年頃

支配下のシュメール人が再度独立、ウル第3王朝を形成した。この王朝で最古の成文法典『ウル=ナンム法典』<sup>へんさん</sup>が編纂された。

## V前1894年～前1595年頃

古バビロニア王国…セム語族に属する〔7〕の王朝。

- メソポタミア中部のユーフラテス川河畔のバビロンに都を置いた最初の王朝(=バビロン第1王朝)。
- 6代ハンムラビ王のときにメソポタミアを再統一した。
- ハンムラビ法典をつくり、身分ごとに刑罰を定めた階級刑法に基づく復讐法を制定。その法典は、太陽神シャマシュより与えられるという祭政一致の神権政治の形をとるレリーフが残る(ルーブル美術館所蔵)。

## VI前1700年頃 ヒッタイト王国…インド=ヨーロッパ語族に属するヒッタイト人の王国

- アナトリア半島(現在のトルコ)の北東部〔8〕(ハットウシャ)に都を置く。
- 早い段階から〔9〕の使用が名高い。
- エジプト新王国と衝突し、前1286年あるいは前1275年頃に〔10〕の戦いが行われる。記録上で最古となる休戦条約をヒッタイト王ムワタリとエジプト新王国のラメス(ラメセス)2世が締結した。
- 地中海東岸へ侵入してきた海の民(旧約聖書ではペリシテ人)により前1200年末頃までに滅亡。
- 同時期のメソポタミア北部には、民族系統不明のミタンニ人によるミタンニ王国が成立。後に服属していたセム系の〔11〕王国が前1350年頃独立し、のちにオリエントを初統一した。メソポタミア南部には、民族系統不明の〔12〕王国が成立。バビロンに都を置き、バビロン第3王朝と呼ばれる。エラム人との抗争を繰り返した。

## VII前1200年頃 「海の民」の襲来によるオリエント地域の混乱

- 海の民は地中海を東進してエジプト新王国やミケーネ文明を衰退させ、〔13〕王国を滅ぼしたとされるが、民族の様相が解明されていない民族である。
- ユダヤ教の経典『〔14〕』ではパレスチナ南部沿岸に住むペリシテ人と同じ民族と考えられている。羊飼(ラビと呼び、ユダヤ教では聖職者を指す言葉)のダヴィデはヘブライ王国のサウル王の娘を誘拐したペリシテ人の巨人戦士ゴリアテを討伐し、娘と結婚して2代のヘブライ王となるエピソードに登場する。

## VIII前1200年～前800年頃 セム系三民族の活動

アラム人…セム系、内陸中継貿易で活躍

- 現在のシリア共和国の〔15〕を中心都市とする。
- ラクダを使用して砂漠の〔16〕都市を結び内陸中継貿易で活躍した。
- 楔形文字で表記されるアラム文字を使用し、アラム文字とアラム語は、〔17〕として商業の共通言語となった。東方諸文字の起源(ソグド文字→ウイグル文字→モンゴル文字→満州文字)となり、記数法は現在の〔18〕数字として全世界で使用されている。

フェニキア人…セム語系民族、地中海貿易で活躍

- 現在のイスラエルから〔19〕の沿岸地帯のシドン、ティルスなどの都市を中心に地中海全域で交易を行った。
- ティルスが前9世紀に滅びると女王エディサが生き残り、〔20〕に植民都市カルタゴを建設して、以降も地中海交易を支配した。前264年～前146年にローマとの3回にわたる〔21〕戦争で敗北、ローマの属州となった。
- フェニキア文字は、ギリシアで表音文字となり〔22〕として西方の諸文字として発展した。

ヘブライ人…セム系民族、ユーフラテス川上流域で遊牧生活をしていた

- 前1500年頃にユーフラテス川の上流より〔23〕へ南下して定着した。一部(ヤコブ支族)はさらに南下してエジプトまで移住した。
- 前1200年頃、エジプト新王国の〔24〕の弾圧で、出エジプトを行いパレスチナに帰還した。この出エジプト時に預言者〔25〕はシナイ山で唯一神ヤハウェより十戒を授けられ、ユ

ダヤ教の律法 = 戒律(トーラー)が形成された。

- パレスチナに帰還したヘブライ人達は、前1000年頃ヘブライ王国を建国して、**ダヴィデ**とその子である [26] ] 王の時代に繁栄したことが『旧約聖書』の『列王記』に記されている。
- 前922年頃にヘブライ王国は南北に分裂、北の [27] ] 王国は前722年にアッシリアのサルゴン2世によるオリエン特統一過程で滅亡。南の [28] ] 王国は前586年に新バビロニア王国の [29] ] により滅ぼされ、住民の多くはバビロンへ50年弱強制的に移住を余儀なくされた(=前586年～前538年のバビロン捕囚)。
- 前538年にアケメネス朝の [30] ] が解放しパレスチナへ帰還。エルサレムに**第2ヤハウエ神殿**(現在の嘆きの壁)を建設し、ゾロアスター教の影響下で民族宗教である [31] ] 教信仰が形成された。

#### IX前671年…アッシリア王国のオリエン特初統一 都はアッシュル、統一後はニネヴェ

- 前1350年頃にミタンニ王国に服属していたセム系のアッシリア王国が独立した。
- [32] ] の時にイスラエル王国を滅ぼし、その後、前671年には、強大な武力でメソポタミアとエジプトを合わせた地域を統一、初のオリエン特統一を果たした(最初の世界帝国となる)。
- 最盛期のアッシュルバニパル王の時代の武を重んじる気風から他民族を弾圧した(=武断統治)。
- 支配地を州に分けて統治し、**駅伝制**により**中央集権国家**を目指した。しかし、他民族への統治は武断統治が過酷を極めたため各地で反乱が起こり、統一からわずかな期間で滅亡した。
- 首都ニネヴェの**大図書館**が有名であり、 [33] ] で記録を保存、滅亡の年の記録が所蔵されている。

#### Xアッシリアの4分裂

- アッシリア王国が他民族への武断統治により前612年に滅亡すると、4つに分裂した。
- アナトリア半島…**リディア王国** 都**サルデス** 世界初の [34] ] (Coin)を発行(エレクトロン金貨)。
- メソポタミア…**新バビロニア王国**(別名 [35] ]) 都**バビロン** 前586年メソポタミア統一時にヘブライ人のユダ王国を滅ぼし、住民を都バビロンに強制移住させた(=バビロン捕囚、前586年～前538年)、アケメネス朝**ペルシア帝国**の**キュロス2世**が解放。
- イラン… [36] ] 都**エクバタナ** アケメネス朝の母体となった国家。
- エジプト…**サイス朝** 第26王朝 都**サイス** **エジプト末期王朝**(26王朝～30王朝)の始まりとなる王朝、黒人の**クシュ人**との抗争。

#### ④アケメネス朝ペルシア帝国のオリエン特再統一

- 4王国の分立を終結させたのは、メディア王国より独立しイラン高原の西部沿岸地域に成立した、**インド = ヨーロッパ語族**である [37] ] (現イラン人)人のアケメネス朝ペルシアであった。
- 前550年に [38] ] が建国し、前539年メソポタミアの**新バビロニア**を滅ぼし統一、ヘブライ人へのバビロン捕囚を解放した。
- 2代 [39] ] が前525年にエジプトを征服してオリエン特を再統一した。
- 3代 [40] ] の時代に最盛期を迎え、**中央集権体制**を確立した。
- アッシリアの武断統治を反省し、他民族への寛容な統治を行いつつ、支配地を州に分けた統治を引き継ぎ、州知事(サトラップ)を置き、**官僚機構と法による統治**を確立させた。
- これらの反乱に備えて各地に [41] ] と呼ばれる**巡察使**を派遣して監視を行った。また、情報の伝達を迅速化するため**王の道**をアナトリア西部の**サルデス**から都の**スサマ**まで整備して**駅伝制**を採用した。
- ゾロアスター教**を保護して信仰し、王都**ペルセポリス**を造営した。
- この宗教は**善悪二元論**をとり、善の神**アフラ = マズダ**と悪の神**アーリマン**が最終戦争(**ハルマゲドン**)において争い、**アフラ = マズダ**が勝利するという信仰であり、**ユダヤ教**、**キリスト教**、**イスラム教**の成立に影響を与えた(例えば**天使と悪魔**などの二元的観念や**最後の審判**など)。アフラ = マズダの象徴である**火**を崇拝することか

ら拜火教とも呼ばれる。中国名は**祆教**と呼び5世紀の北魏に伝来して、唐代**三夷教**(大秦景教=ネストリウス派、摩尼教=マニ教、祆教)となる。

- 前500年から前449年にギリシアのポリス世界に対し大遠征を行ったペルシア戦争が、4代国王である【12】の時代まで行われるが勝利できず敗北し、後にアレクサンドロス大王の東方遠征を呼び込み滅亡する原因を作った。
- 前334年より開始されたマケドニア王アレクサンドロス大王の東方遠征を受けて最後の王ダレイオス3世は大軍で迎え討つが、前333年の【13】の戦い、前331年アルベラの戦いで敗北、エジプトを抑えられ各州の反乱が起り、退却中にバクトリア総督の裏切りで殺害され滅亡した。

#### ◇ 古代エジプト史

- エジプト人は【1】、神官文字、民用文字などの象形文字を使用し、石碑やパピルスなどに**靈魂不滅思想**などを示す**死者の書**(冥界の神オシリスの審判へのマニュアル)などの文書を残した。1799年のナポレオンのエジプト遠征中に発見された【2】=ストーン(プトレマイオス5世の事績を記した碑文)の金型を用いて、1822年にフランスのシャンポリオンが解読に成功。信仰は太陽神ラーを中心とする多神教であり、王は太陽神の子とされ**ファラオ**(大きな家)と呼ばれ、最高神官として祭政一致の神権政治を行った。
- 前3000年頃 **村落社会**(【3】)から**メネス王**が上下エジプトを初統一し、第1王朝が形成された。
- 前2600年頃 **古王国時代** 第3王朝～6王朝期 都はナイル川下流の**メンフィス**。【4】に**クフ**(第4王朝)、**カフラー**、**メンカウラー**の三大ピラミッドが建設された(**ピラミッド時代**)。
- 前2020年頃 **中王国時代** 第11王朝～12王朝 都はナイル川中流の**テーベ**。
- 前1670年頃 外部民族の**ヒクソス**の侵入を受ける。
- 前1567年 **新王国時代** 第18王朝～20王朝 **テーベ**の**ファラオ**が**ヒクソス系**の第17王朝を追放して成立。都は**テーベ**。
- 前15世紀中 【5】の時代に北はシリア、南はスーダンに及ぶ最大領域を現出。
- 前1351年～1334年 【6】の時代に、**アモン**=ラーの多神教から**アトーン**=神教への宗教改革が行われた。これは**テーベ**の神官団を抑え、**ファラオ**が政治権力を握るための中央集権化政策である。自らが唯一の**神の代弁者**(**イクナートン**)とした。この時代のみ都を**テル=エル=アマルナ**へ遷都し、神官の政治介入を排除して王権を強化した(**アマルナ時代**)。また、【7】的な**アマルナ美術**が生まれ他のエジプト美術とは一線を画する。代表的な遺物に王妃**ネフェルティティ**の像(ベルリン美術館所蔵)がある。
- しかし、次代の**ツタンカーメン**の時代に全ての政策が元に戻され記録から抹消された。ツタンカーメンの王墓は1922年にイギリスの**カーター**がほぼ未盗掘で発見して考古学上の大発見となった。
- 前13世紀前半 **ラメス**(**ラメセス**)2世の時代には、**ヒッタイト**王国と**鉄の資源**をめぐる争いが起り前1275年(前1286年とも)頃に**ヒッタイト**王**ムワタリ**と**カデシュ**の戦いで引き分け、記録上世界初の講和条約が締結された。また、この戦いの後に**アブシンベル神殿**が建設されエジプト建築美の最高峰となった。また、**ヘブライ人**を弾圧し、出エジプトが起こった。
- この時期を契機に、エジプト新王国は衰退に向かい、【8】王国の**オリエント**統一過程の前1069年に、第21王朝～31王朝の**末期王朝**へ移行した。
- ヒッタイトの分裂期に**サイス朝**(**第26王朝**)が成立するが、**黒人系**【9】人との抗争の後に**アケメネス朝**により征服された。
- その後、**ヘレニズム時代**に入り**アレクサンドロス帝国**、**プトレマイオス朝**が成立。これらの歴代の王も**ファラオ**を名乗ったが、前31年の【10】の**海戦**でローマに敗北して、前30年にエジプトはローマの【11】となり、ここにエジプトの古代は終わりを告げた。

## >>> 確 認 問 題 <<<

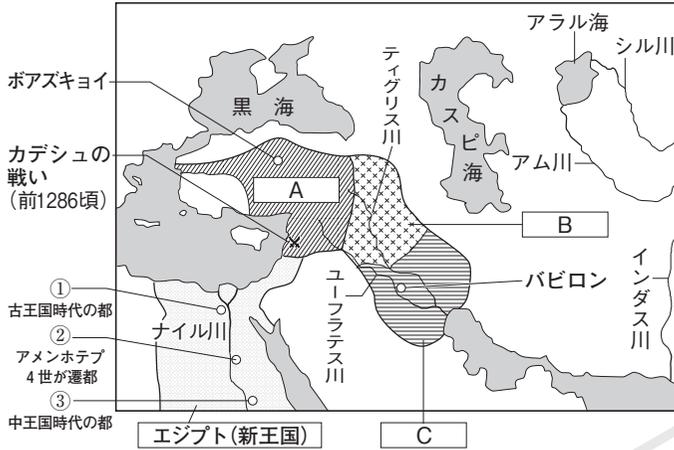
● 次の問いに答えよ。または、( )にあてはまる語句を書け。

- ① 猿人は、礫石器などの打ちかいただけの単純な( )石器を使用した。 [ ]
- ② 原人は、①や( )を使用して、狩猟・採集生活を営んだ。 [ ]
- ③ ドイツで発見された( )人は、死者を埋葬する習慣をもった旧人である。 [ ]
- ④ フランス南西部で発見された洞穴遺跡を何というか。 [ ]
- ⑤ 狩猟採集の獲得経済に対して、農耕・牧畜の経済を何というか。 [ ]
- ⑥ ティグリス川とユーフラテス川の流域にあり、メソポタミア文明がおこった大農耕地帯は肥沃な( )と呼ばれた。 [ ]
- ⑦ メソポタミア中部にバビロン第1王朝を建てた民族は、何人か。 [ ]
- ⑧ メソポタミア南部に成立した( )王国は、バビロン第3王朝とも呼ばれた。 [ ]
- ⑨ 海の民の侵入などによって滅んだ、早い段階から鉄器を使用したとされる王国は何か。 [ ]
- ⑩ 現在のシリア共和国にあり、内陸中継貿易の拠点となったアラム人の中心都市は何か。 [ ]
- ⑪ ヘブライ王国が南北に分裂したあと、北部に成立した王国は何か。 [ ]
- ⑫ ネブカドネザル2世によって滅ぼされたヘブライ人の王国は何か。 [ ]
- ⑬ イスラエル王国を滅ぼしたアッシリア王国の王は誰か。 [ ]
- ⑭ アッシリア王国から分裂したリディア王国は、世界で初めて( )を発行した。 [ ]
- ⑮ アッシリア王国から分裂した4つの国のうち、イランに成立した王国は何か。 [ ]
- ⑯ アケメネス朝を建国した王は誰か。 [ ]
- ⑰ オリエントを再統一したアケメネス朝の王は誰か。 [ ]
- ⑱ 中央集権体制を確立したアケメネス朝の最盛期の王は誰か。 [ ]
- ⑲ 古代エジプトでは、( )文字、神官文字、民用文字などの象形文字が使用された。 [ ]
- ⑳ エジプト新王国時代に、都をテル＝エル＝アマルナへ遷都した王は誰か。 [ ]

# 基本問題

● 次の2つの地図中の①～⑦にあてはまる都市名、A～Fにあてはまる国名を書け。

## ▼前15～前13世紀のオリエント



- ① \_\_\_\_\_
- ② \_\_\_\_\_
- ③ \_\_\_\_\_
- ④ \_\_\_\_\_
- ⑤ \_\_\_\_\_
- ⑥ \_\_\_\_\_
- ⑦ \_\_\_\_\_

A \_\_\_\_\_ 王国

B \_\_\_\_\_ 王国

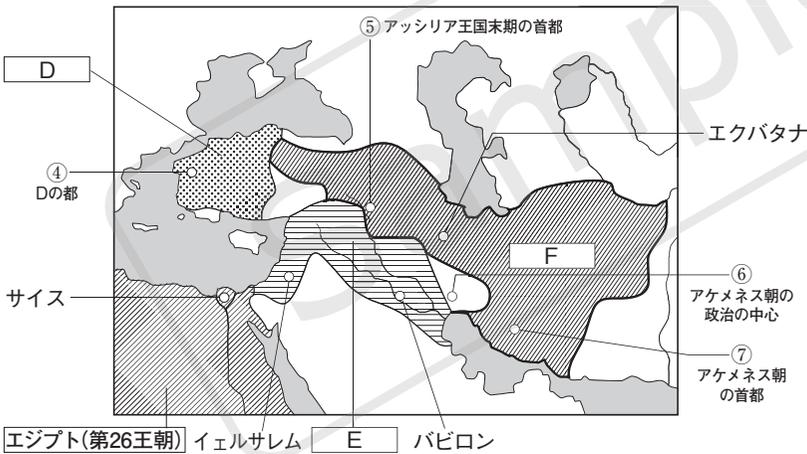
C \_\_\_\_\_ 王国

D \_\_\_\_\_ 王国

E \_\_\_\_\_

F \_\_\_\_\_ 王国

## ▼アッシリア→アケメネス朝ペルシア



# 演 習 問 題

① **先史の世界** 次の文章を読み、～にあてはまる語句を入れ、以下の設問に答えよ。

最古の人類が出現したのは約700万年前とされ、猿人と呼ばれるヒト科の最古の化石人類はサヘラントロプスであるが、400万年前頃になると、が出現した。180万年前頃には、猿人にかわりインドネシアで発見された原人や中国の北京原人など、ホモ=エレクトゥスと呼ばれる原人が登場し、アフリカから東アジアにまで分散した。

60万年前になると、原人にかわって旧人が現れ、30万年前頃にはヨーロッパに人が現れた。約20万年前ころには、現生人類に直接つながる新人が現れた。代表的な新人は南フランスで発見された人や中国で発見された周口店上洞人である。彼らは動物の骨や角などで作製したを釣針や銚の穂先に利用し、人は、スペインのやフランスのに洞穴絵画を残した。

およそ1万年前になると、最後の氷期が終わり温暖化した。この頃には農耕や牧畜を行う経済がはじまり、食料生産革命(新石器革命)がおこった。また、磨製石器の使用や土器が作製され、旧石器時代から新石器時代に移行した。農耕では、当初は乾地農法であったが、前4000年頃より耕地に人工的に水を供給する農業がはじまった。これにより生産が安定すると、階級や都市国家が生まれ、青銅器の使用がはじまって金属器時代に移行した。

(1) 化石人類について述べた次の文 a と b の正誤の組合せとして正しいものを、あとのア～エのうちから一つ選べ。

- a 猿人は、火を使用して狩猟・採集生活を営んだ。
- b 旧人は、死者を埋葬するなど精神文化を発達させた。
- ア a - 正    b - 正    イ a - 正    b - 誤
- ウ a - 誤    b - 正    エ a - 誤    b - 誤

A	
B	
C	
D	
E	
F	
G	
H	
I	
(1)	

② **古代オリエントの諸民族** 次の文章を読み、～にあてはまる語句を入れ、以下の設問に答えよ。

(a) 古代オリエントで、最初に文明が形成されたのはエジプトやメソポタミアであった。メソポタミア南部では、前2700年頃までに民族系統不明の( 1 )人がウル・ウルクなどの都市国家を建設していたが、前24世紀にはセム系の( 2 )人の国王がメソポタミアを初統一した。( 2 )王国の崩壊後、( 3 )人がバビロン第1王朝(古バビロニア)をおこし、前18世紀にハンムラビ王のもとでメソポタミアを再統一して全盛期を迎えたが、前16世紀には、アナトリア(小アジア)に成立した( 4 )によって滅ぼされた。

エジプトはナイル川流域を中心に発展し、前27世紀以降の第3～6王朝の時期は古王国時代と呼ばれ、都がに置かれた。その後、中王国時代に移行したが、中王国末期に、異民族の( 5 )が侵入して一時期エジプトを支配した。前16世紀には( 5 )を追放して、を都に新王国が成立した。前14世紀に即位した国王は、宗教改革などを実施するも、王の死後に改革は挫折した。

前13世紀から前12世紀にかけて、東地中海では「海の民」によって( 4 )が滅亡し新王国もシリアから後退すると、東地中海ではセム系民族の活動が活発化した。貿易活動では、シリアの都市を中心に( 6 )人が内陸貿易をおこない、シドンやティ

A	
B	
C	
D	
E	
F	
G	
H	
I	

ルスを中心に海上貿易で活躍した( 7 )人などが活発な活動を行った。また、( 8 )人は、預言者モーセの指導でエジプト新王国から脱出し、パレスチナにイスラエル王国を建国した。王国は[F]と次の[G]の治世に全盛期を迎えたが、その後南北に分裂した。前6世紀、[H]王国によって征服された南部の[I]王国の国民は、前586年から「バビロン捕囚」と呼ばれる強制移住を受けた。その後解放されると、エルサレムに神殿を再建し、(b)ユダヤ教が成立した。

(1) 文章中の空欄( 1 )～( 8 )にあてはまる語句を、次のあ～こからそれぞれ選び、記号で答えよ。

- あ アッカド      い アムル      う アラム      え カッシート  
 お シュメール      か ヒクソス      き ヒッタイト      く フェニキア  
 け ヘブライ      こ ミタンニ

(2) 下線部(a)に関連して、古代オリエント文化について述べた文として正しいものを、次のア～エのうちから一つ選べ。

- ア エジプトで使用された太陽暦は、後のユリウス暦のもととなった。  
 イ ハンムラビ法典では、同回復讐法の原則が身分に関わりなく適用された。  
 ウ エジプト新王国時代には、ギザなどに多くのピラミッドが建設された。  
 エ ロゼッタ＝ストーンを手掛かりに、ローリンソンが神聖文字を解読した。

(3) 下線部(b)について述べた文として正しいものを、次のア～エのうちから一つ選べ。

- ア アフラ＝マズダとアーリマンを信仰した。  
 イ 選民思想やメシア信仰などを特色とする。  
 ウ 『旧約聖書』と『新約聖書』が経典である。  
 エ 「最後の審判」の思想が、ゾロアスター教に影響を与えた。

	1
	2
	3
	4
(1)	5
	6
	7
	8
(2)	
(3)	

㉓ **オリエントの統一** 次の文章を読み、[A]～[F]にあてはまる語句を入れ、以下の設問に答えよ。

前7世紀、セム語系の[A]人がオリエントを初統一すると、[B]王の時代には領土が最大となり、都[C]には図書館が建設された。しかし、[A]王国が滅亡するとオリエントは4つの王国に分裂した。前6世紀半ば、国王[D]によって成立したアケメネス朝ペルシアは、2代目国王の時代にエジプトを征服してオリエント再統一を達成すると、3代目国王の[E]によって中央集権体制が整えられ、王都[F]が建設されるなど全盛期を迎えた。しかし、アレクサンドロス大王の東方遠征によって、前4世紀後半に滅亡した。

(1) 下線部について述べた文として誤っているものを、次のア～エのうちから一つ選べ。

- ア 全国を20州に分け、サトラップを派遣して統治した。  
 イ 「王の目」や「王の耳」と呼ばれる巡察使を派遣した。  
 ウ 重税や強制移住を行うなど、異民族を厳しく統治した。  
 エ 全盛期には、インダス川流域まで領土を拡大した。

A	
B	
C	
D	
E	
F	
(1)	